

氏名	千貫 祐子
学位の種類	博士 (医学)
学位記番号	甲第397号
学位授与年月日	平成25年3月21日
審査委員	主査 教授 原田 守
	副査 教授 宮崎 康二
	副査 教授 川内 秀之

論文審査の結果の要旨

食物依存性運動誘発アナフィラキシーは、特定の食物の摂取後に運動することにより生じる全身性のアレルギー疾患であり、小麦が原因抗原の場合は小麦依存性運動誘発アナフィラキシー (wheat-dependent exercise-induced anaphylaxis: WDEIA) と呼ばれる。最近本邦で、加水分解小麦 (hydrolyzed wheat protein: HWP) を含む石鹼を使用したヒトの一部にWDEIAが生じた症例が報告された。患者の多くは、通常型WDEIAの主要アレルゲンである ω -5グリアジンに対する特異的IgEが陰性で、臨床症状も通常型のWDEIAとは異なっていた。一方、好塩基球は肥満細胞とともにIgE依存性即時型アレルギーにおいて中心的役割を担っているが、好塩基球は末梢血中に存在するために、*in vitro*での検査が容易である。本研究では、WDEIA患者の末梢全血をアレルゲンで刺激し、好塩基球上の活性化マーカーであるCD203cの発現レベルを測定することにより、通常型とHWP型のWDEIA患者を鑑別できるかについて検討した。さらに、石鹼に含有されている6種類のHWPのアレルゲン性について検討した。その結果、① 精製 ω -5グリアジンと石鹼含有HWPに対する10名の患者 (HWP型WDEIA患者5名と通常型WDEIA患者5名) の末梢血好塩基球のCD203cの発現を、Allergenicity kit®およびフローサイトメトリー法で測定したところ、HWP型WDEIA患者ではHWPの濃度依存的にCD203c発現の増強が認められた。一方、通常型WDEIA患者では ω -5グリアジンの濃度依存的にCD203c発現の増強が認められた。②国内で使用されていた6種類のHWPのアレルゲン性をイムノプロット法、CD203cの発現定量、ゲル濾過クロマトグラフィーで検討したところ、高分子量の蛋白質を多く含む2種類のHWPが、HWP型WDEIA患者の血清中のIgEと強く結合し、好塩基球上のCD203cの発現も有意に増強した。以上より、末梢血好塩基球のCD203cの発現測定はWDEIAの診断に有用であり、高分子量の蛋白質を含む特定のHWPにより経皮的に感作が起こる可能性が示唆された。本研究は、皮膚科領域のアレルギー疾患の診断において新規の診断法を提供するきわめて有意義な研究であると判断した。